

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり1.63人と、前週と比べてやや増加し、例年同時期に比べて報告数が多くなっています。また年齢別では、2歳以下の患者数が9割近くを占めています。

全国的にも増加していますので、咳エチケットや手洗いの励行など感染予防対策を徹底しましょう。

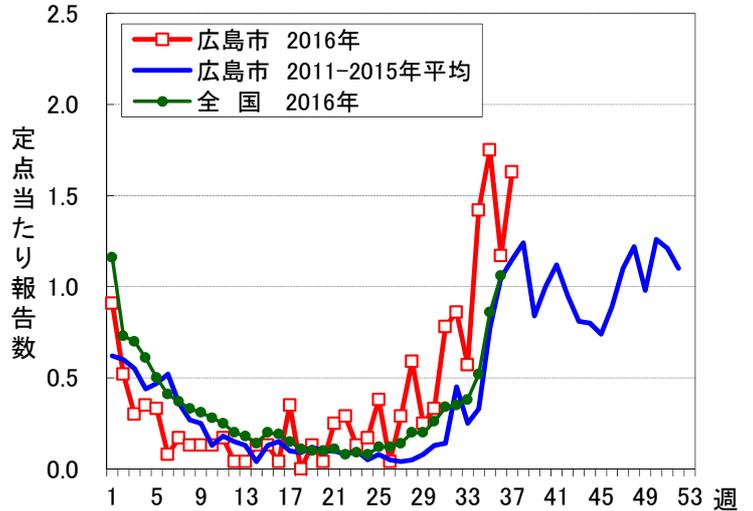
2. 感染性胃腸炎

定点当たり6.58人と、前週と比べて約1.6倍に増加しました。例年、秋から冬にかけて増加傾向にありますので、手洗いの励行や便・吐物の適切な処理など感染予防対策を心がけましょう。

3. 重症熱性血小板減少症候群

今年1例目となる報告がありました。(次頁参照)

RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減	
												↑	↓		
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.05		小児科	流行性耳下腺炎	18	0.75	0.56		↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減	
小児科	咽頭結膜熱	12	0.50	0.39		小児科	RSウイルス感染症	39	1.63	1.15		↑	↓	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.88	1.18		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	感染性胃腸炎	158	6.58	3.39	↑	眼科	流行性角結膜炎	5	0.63	1.30		↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	水痘	12	0.50	0.50		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		↔	↔	ほとんど増減なし	
	手足口病	17	0.71	2.67	↑		無菌性髄膜炎	-	-	0.17		↔	↔	ほとんど増減なし	
	伝染性紅斑	10	0.42	0.19			マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.34		↔	↔	ほとんど増減なし	
	突発性発しん	8	0.33	0.40			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		↔	↔	ほとんど増減なし	
	百日咳	1	0.04	0.09			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-		↔	↔	ほとんど増減なし	
	ヘルパンギーナ	8	0.33	0.56								↔	↔	ほとんど増減なし	

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	111	男性(10歳未満)
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	男性(60歳代)・市外
4	デング熱	1	7	男性(30歳代)・推定感染地域: 国外
5	梅毒	1	16	男性(50歳代)
5	破傷風	1	2	女性(80歳代)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	第33週	第34週	第35週	第36週	第37週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
						-	17	28	68	5	4	4	6	1	3	6	13	-	3	-	-	9	-	-	
広島市	第33週	-	10	25	104	20	7	18	11	1	10	6	34	-	6	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-
	第34週	-	18	19	108	12	3	12	12	1	11	9	42	1	3	-	1	3	-	1	4	-	-	-	-
	第35週	-	13	33	98	15	5	7	13	3	7	14	28	-	9	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
	第36週	-	12	45	158	12	17	10	8	1	8	18	39	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	第37週	-	0.74	1.22	2.96	0.22	0.17	0.17	0.26	0.04	0.13	0.26	0.57	-	0.38	-	-	-	-	-	1.29	-	-	-	-
広島市	第33週	-	0.42	1.04	4.33	0.83	0.29	0.75	0.46	0.04	0.42	0.25	1.42	-	0.75	-	-	-	-	-	0.43	-	-	-	-
	第34週	-	0.75	0.79	4.50	0.50	0.13	0.50	0.50	0.04	0.46	0.38	1.75	0.13	0.38	-	0.14	0.57	-	-	-	-	-	-	-
	第35週	-	0.54	1.38	4.08	0.63	0.21	0.29	0.54	0.13	0.29	0.58	1.17	-	1.13	-	-	0.57	-	-	-	-	-	-	-
	第36週	-	0.50	1.88	6.58	0.50	0.71	0.42	0.33	0.04	0.33	0.75	1.63	-	0.63	-	-	0.29	-	-	-	-	-	-	-
全国	第35週	0.03	0.43	1.26	3.90	0.22	0.70	0.17	0.54	0.03	1.95	0.94	0.86	0.01	0.90	0.02	0.11	0.88	-	-	0.01	-	-	0.01	
	第36週	0.05	0.39	1.44	3.76	0.26	0.73	0.17	0.55	0.03	1.67	0.99	1.06	0.01	1.00	0.05	0.06	0.85	0.01	0.02	-	-	-	0.02	

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
流行性耳下腺炎	発熱(39.5) 嘔吐 嘔気 頭痛	9	男	2016/07/09	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
流行性角結膜炎	角結膜炎	27	女	2016/08/15	結膜擦過物	アデノウイルス64型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニによる感染症に注意しましょう

- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) / 日本紅斑熱 / つつが虫病 -

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに吸着されることにより感染する病気です。潜伏期間は6日～2週間で、主に発熱や消化器症状(食欲低下・嘔気・嘔吐・下痢・腹痛)が出現します。西日本を中心に、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて患者が発生しています。

このほかに、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

- ・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2016年第37週(9月12日～9月18日)